戎橋公衆トイレデザイン・建築設計公募型コンペティションの結果について

大阪市

1　デザイン・建築設計公募型コンペティションの概要及び選定結果

大阪市は、戎橋の南詰西側に位置する本市の公衆トイレについて、老朽化による建替を実施するにあたり、道頓堀戎橋周辺の環境をより一層魅力的な地域とできるよう、建替の施設デザイン・建築について先進的で優れた設計提案を広く求めるため、公募型コンペティションを実施しました。

本コンペの実施にあたっては、第1次審査と第2次審査からなる2段階審査方式を採用するとともに、学識経験者で構成する「令和4年度戎橋公衆トイレデザイン・建築設計公募型コンペによる事業者選定会議」を設置し、専門的見地からのご意見をいただきました。

第1次審査では、１６３の参加者から設計提案書が提出され、この中から第2次審査に進む者として5者を選定しました。引き続き第2次審査では、その審査において公開によるプレゼンテーション及びヒアリングを実施した上で、次のとおり最優秀案及び次点案を決定しました。

【選定結果】

- **最優秀案の提案者　：　松本　秀樹　（登録番号４６）**
- **次点案の提案者　　：　佐野　健太　（登録番号１８０）**

2　デザイン・建築設計公募型コンペティションの実施経緯

・令和４年10月に開催した第１回の選定会議では、本設計コンペを２段階審査方式により実施すること、及び「戎橋公衆トイレデザイン・建築設計公募型コンペティション実施要領」の内容について検討が行われ、11月開催の第２回選定会議では、審査基準並びに公募型設計コンペティションの実施方法についての検討が行われました。

・第１次審査では、設計条件に応じた設計提案書の提出を求め、令和４年12月に第３回選定会議を開催し、「地域文化・公共性」（歴史・文化など地域性の読み解き、景観調和、場所性と公共性）、「機能性」（機能・空間計画の合理性）、「創造性」（シンボル性、公共トイレの新しい価値の提示）、「安心安全性」（防犯性、災害時対応）、「環境性」（衛生、環境負荷）などの視点から総合的な評価が行われ、第2次審査に進む提案を選出しました。

・第２次審査では、令和５年１月に開催した第４回選定会議において、提案者による公開プレゼンテーション並びに、委員によるヒアリングを実施した上で、「地域文化・公共性」「機能性」「創造性」「安心安全性」「環境性」さらには「維持管理性」（耐久性、メンテナンス性）、「実現可能性」（施工の合理性、工事費の合理性）などの視点から総合的な評価が行われました。

・上記のような選定会議における評価も踏まえた上で、最優秀案及び次点案を決定しました。

令和 4 年 10 月 3 日（月）	第 1 回選定会議の開催
令和 4 年 10 月 11 日（火）	「戎橋公衆トイレデザイン・建築設計公募型コンペティション実施要領」の公告
令和 4 年 11 月 17 日（木）	第 2 回選定会議の開催
令和 4 年 12 月 9 日（金）	第 1 次審査書類＜設計提案書＞の提出期限（参加者：163 者）
令和 4 年 12 月 21 日（水）	第 3 回選定会議の開催【第 1 次審査】
令和 4 年 12 月 23 日（金）	第 2 次審査に進む 5 者の選定結果の発表
令和 5 年 1 月 13 日（金）	第 2 次審査書類＜プレゼンテーション参加者報告書等＞の提出期限
令和 5 年 1 月 18 日（水）	第 4 回選定会議の開催【第 2 次審査】 (公開によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施)
令和 5 年 2 月 3 日（金）	最優秀案及び次点案の選定結果の発表

3　選定会議

選定会議については、都市計画・建築の専門分野において、豊富な知識や経験を有する 3 名の委員にご協力をいただきました。また、委員長には、委員の互選により大阪公立大学教授の嘉名氏が選出されました。

氏　　名		所属・役職等	専門分野
委員長	嘉名 光市	大阪公立大学大学院工学研究科教授	都市計画
委員	竹原 義二	無有建築工房代表	建築
	榊原 節子	榊原節子建築研究所代表	建築

選定会議　講評

令和4年度戎橋公衆トイレデザイン・建築設計公募型コンペによる事業者選定会議
委員長　嘉名 光市

この度、大阪市戎橋公衆トイレデザイン・建築設計公募型コンペティションが実施され、全国各地から163者の設計提案がありました。

大阪市のほぼ中央に位置する戎橋。この道頓堀を代表する戎橋は、大阪観光のフォトジェニックな場所でもあり、多くの若者や観光客がグリコや道頓堀の様々な看板などを背景に記念写真を撮る姿を目にします。その戎橋筋商店街と道頓堀商店会の交わる位置でもある戎橋の南詰西側に、大阪市の戎橋公衆トイレが大正11年に設置され、長く利用されてきました。このトイレは、昼夜を問わず利用者が多く、その老朽化による抜本的整備が望まれています。今後、大阪・関西万博の開催等に伴い海外来訪者の増加が予想され、混雑緩和、衛生面の確保と共に、分かりやすく、安心安全な公衆トイレの建替を実施することとなりました。建替にあたって、本施設が道頓堀・戎橋周辺の

環境をより一層魅力的なものとする先進的なデザインであり、またカーボンニュートラルやSDGs、ジェンダーレスなど今後の社会において重視されるべき価値観に合致しながら、これからの公共トイレのあり方を示唆する優れた提案を期待して、公募型コンペティションを実施することに至りました。

公示から短い期間であったにもかかわらず、期待以上の数の設計者からの提案をいただくことができました。戎橋のたもとという、たった一つの場所にふさわしいトイレとなるよう、いただいた提案を地域文化・公共性、機能性、創造性、安心安全性、環境性、維持管理性、実現可能性の７つの視点から審査を行うこととしました。

第１次審査では、163者もの予想を上回る多種多様な提案が見受けられ、絞り込むことが非常に困難なことでした。委員同士の議論を重ねて第２次審査に進む５案を絞り込みました。

第２次審査では、公開による提案者のプレゼンテーションと委員からのヒアリングが行われ、委員はそれぞれの案についての理解を深めました。各提案者の場所性の理解、法適合や合理的な工法への検討、そして、おそらく国内有数の高い使用頻度に耐えうる耐久性や維持管理性への配慮などを論点とした、提案者と委員の熱のこもったやり取りがなされました。

こうした経過の中から、特に最優秀案と次点案は、単なる公衆トイレを超えた新しい都市の公共施設となり得る提案であったと考えています。最優秀案となった松本秀樹氏による街並みとつながり新しい公共空間の実現を予想させる良く考えられた施設レイアウト、次点案の佐野健太氏によるトイレの手洗いの在り方が敷地周辺を超えて大きな都市性まで想起させる公衆トイレの建築が持つ新たな可能性など。設計コンペによる設計者選定という形をとったことによって、提案者たちから、より自由で創造的な発想を引き出すことができたことは、本事業の大きな成果であったと考えています。

〇最優秀案

【本コンペ登録番号　46番：松本　秀樹】

ボリュームを箱状に分割することで周辺景観との調和をはかり、全てのブースを個室化して独立性を保つ。各室につながる土間通路が施設の中央を通り街並みに対して接続する。公衆トイレの中に新しい公共空間を創り出そうとする試みが評価された。夜間に内部照明が外装材を透過して街の中で発光体としての存在感を持たせる提案は、繁華街である周辺環境にも埋没しない強さを表現していることも魅力的であった。利用形態に応じて多様な動線の設定ができる柔軟な計画であり、混雑時の行列にも対応できるレイアウトであること、中央の通路に対して外部からの視線が通り、防犯安全性にも十分配慮されていることなど、機能面でもよく検討されており高い評価を得たことから、本設計競技の最優秀案としてふさわしいと判断した。

なお、最優秀案と選定するにあたり、選定会議の中で以下のような意見が出されており、今後、大阪市と十分な協議を図りながら設計を進め、よりよい提案とされることを期待している。

[委員からの意見]

外装材として提案されている夜間に内部照明を透過するガラス素材の使用は、魅力的な提案であるが、目地の処理の耐久性、防汚性能、法適合性、安全性の十分な検証が望まれる。また、既

視感のある素材形状を避けて材料の持つ特性を活かすことのできる素材形状の吟味や、夜間の発光体としての表情と構造との整合性など、提案された建物の魅力が一層増すような更なる検討を加えられたい。

〇次点案

【本コンペ登録番号　180番：佐野　健太】

戎橋筋を今宮戎神社へ通じる参道として見立て、沿道にあるこのトイレの手洗いを表に出して通り側に設け、まるで神社の手水のような存在感を持たせる計画となっている。この公衆トイレを設けることで、大きな都市軸までもが浮き上がってくる大胆な計画であることが評価された。各個室入口を通りに沿って並べ、オープン化することで機能性も解決している。ただ、薄いステンレスの板を素材としていることなど、利用時の音の問題や安全性、メンテナンス性などの懸念から最優秀案に及ばないと判断した。

〇その他の提案（登録番号順）

【本コンペ登録番号　９番：神山　義浩】

戎橋の親柱のデザインと呼応したシンプルな形状が敷地への納まりが良いことや、周囲の街並みを映すという光沢をもつ黒い外壁の表情もこの地に景観に合った表現であることが評価された。一方、使用を想定している素材が曲面を持つ形状にマッチしていないこと、屋根部の耐久性への懸念、計画された利用者の利用動線が近隣施設に十分配慮されていないことなども指摘され、最終案及び次点案には及ばないと評価した。

【本コンペ登録番号　42番：木内　菜津子】

ユニット工法による軽快さ、天井面に水面を模した表面に凹凸のある鏡面のステンレスパネルを採用し、それに映る街並みの風景を建物内に取り込むことを意図するなどトイレの概念を覆す瀟洒なイメージが評価された。一方、繁華街に建ち極めて高い使用頻度を考えると、スレンダーなイメージを維持するための維持管理性への懸念などから最優秀案及び次点案には及ばないと評価した。

【本コンペ登録番号　124番：森下　大右・南澤　智規】

戎橋はハレの舞台、トイレは舞台袖と見立て、スチールを曲げて作る外壁がカーテンのひだのように柔らかく折れ曲がる形態の面白さが評価された。一方で、その形態により利用者が入口を見つけることが難しいと思える視認性の悪さと、混雑時の使用待ちの複数の行列が発生してしまう恐れが予見されることなどにより、最優秀案及び次点案には及ばないと評価した。